

第7章 新植する際の留意事項

7.1 緑の機能と方針の整理

それぞれの施設が担う緑の機能について整理し、それを実現するための植栽・管理方針を検討しました。

各施設の緑の機能と植栽・管理方針 1

(1) 道路	
緑の機能	道路空間に植栽されている街路樹は、緑陰や良好な景観の形成、生活環境と自然環境保全、交通安全、防災など多岐にわたる機能があるほか、地球温暖化問題が深刻となっている現在では、道路緑化樹木にも都市域の二酸化炭素の吸収源としての役割が期待されている。
植栽・管理方針	・街路樹の課題の多くは、強剪定、工事による根の切断などの人為的な要因が原因となっていることを念頭に、街路樹の健全性の長期維持を検討する。 ・熊本市の気候や風土、歴史等に合う樹種を検討する。 ・樹種ごとの特性に合わせた更新時期を考慮する。 ・「熊本市域街路樹再生計画」と整合を図る。
(2) 公園	
緑の機能	都市公園は、都市のみどりの根幹的な施設で、多様なレクリエーションや自然とのふれあいの場となる他、うるおいのある生活環境の形成、都市や地域の防災性の向上、野生生物の生息・生育環境の確保、豊かな地域づくりに資する交流の場の提供などの多様な機能や効用を有する。
植栽・管理方針	・それぞれの公園が求められる機能やそのための植栽方針によって内容が異なることに留意する。 ・公園植栽樹の課題の多くは、踏圧などによる根の欠陥や害虫の苦情などが挙げられることを念頭に、公園樹木の健全性の長期維持を検討する。 ・公園の防災性の向上は市民の高い関心事の一つであり、公園が各町内会の防災活動の場となっていることから、耐火性や耐潮性などを持つ樹種にも注目する。

各施設の緑の機能と植栽・管理方針 2

(3) 市営住宅	
緑の機能	市営住宅における緑は、生活における環境、大気浄化、熱吸収、防災機能向上、ストレス緩和などの効果の他、住宅地の景観の向上などの機能を持つ。
植栽・管理方針	・本市の気候や風土にあう樹種を検討する。 ・防災機能を意識し、耐火性などを持つ樹種にも注目する。 ・市営住宅の植栽木の課題の多くは、踏圧などによる根の欠陥や害虫の苦情などが挙げられることを念頭に、樹木の健全性の長期維持を検討する。
(4) 学校	
緑の機能	学校における緑は、校門や運動場、敷地外周など多くの樹木が配置され、豊かな緑を形成しており、地域の緑を保全する上でも重要な役割を担っている。長い年月を経て守り育てられた緑は、こどもたちや近隣住民、地域の良好な緑として後世に引き継がれている。
植栽・管理方針	・生き物を大切に育てるという児童への教育の観点からも、より長く愛される緑として維持させるため、まずは既存樹木の健全度の回復と安全な維持管理などを検討する。 ・新植する樹種は、防災機能を意識し、耐火性などを持つ樹種にも注目する。 ・学校植栽樹の課題の多くは、歴史ある学校ほど樹木が多く、干涉、過密により樹木が健全な状態にないことや、隣地への越境、落枝などによる苦情、日常的な踏圧による根の欠陥などが挙げられることを念頭に、学校樹木の健全性の長期維持を検討する。
(5) その他の公共施設（区役所、スポーツ・文化施設、保育・幼稚園、老人憩の家など）	
緑の機能	その他施設における緑は、環境、大気浄化、熱吸収、防災機能向上、ストレス緩和などの効果の他、集客や宣伝による経済的效果も持つ。
植栽・管理方針	・「シンボルツリー」として採用できる樹種や長期的に愛されるための維持管理等を検討する。 ・施設植栽樹の課題の多くは、踏圧や狭い植樹などによる根の衰弱に起因したものが原因となっていることを念頭に、施設樹木の健全性の長期維持を検討する。

7.2 樹種選定

危険樹木点検結果および評価を踏まえ、施設・箇所等のケースごとに、適した樹種の選定を行いました。また、公共施設に関しては、「シンボルツリー」として採用できる樹種の選定も行いました。

学校以外は点検（植栽）数が 10 本以上の樹種とし、危険樹木点検結果において E 判定となった割合が低い樹種を 5～14 種選定しました。また、先の分析で比較的欠陥が多い傾向にあった樹種（表内の灰色セル）は選定から除外し、生長、排気ガス等への耐性（耐煙性）や耐火性なども考慮しました。

案に示す樹種を、植栽する環境（広さ、景観、山地や海岸などの立地条件）等によって適宜選択する際の参考とします。

7.2.1 道路

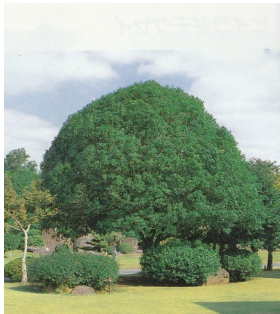
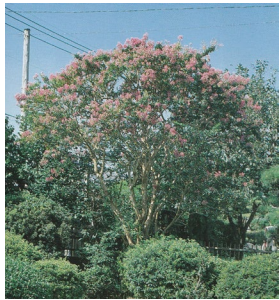
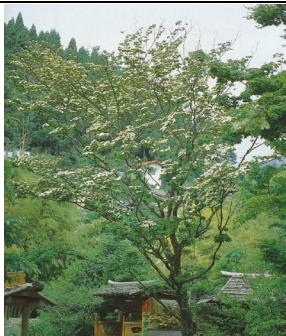
道路の植栽樹種

樹種	常緑・落葉	樹高(m)	耐暑	耐煙	耐火	耐潮	特徴等
イチヨウ	落葉	15-30	○	○	○		本市の木。樹形は整いやすく、葉は扇形で秋に黄葉する。雌雄異株。生長は早い。クスサン、カイガラムシ類等に注意する。
トウカエデ	落葉	10-15	○	○	○		直幹で整った樹形になる。葉は浅く3裂し、ほぼ三角形。秋に紅葉する。樹形が乱れやすいが、刈込に耐える。生長は早い。ミノガ類、アメリカシロヒトリ等に注意する。
クロガネモチ	常緑	10-18	○	○		○	整った広円柱形の樹形。葉は光沢があり濃緑色。雌雄異株で雌木には11月頃実が赤く熟す。生長はやや遅い。自然に樹形が整うため、剪定等の管理がしやすい。カイガラムシ類に注意する。
キンモクセイ	常緑	3-10	○		○	○	球形の整った樹形。10月頃、橙黄色の花が咲き、芳香を漂わせる。生長はやや遅い。萌芽力が強く葉が密につき、比較的樹形が整う。カイガラムシ類、ミノガ類等に注意する。
ナンキンハゼ	落葉	10-15	○	○		△	葉は菱状卵形。樹形は不整形のものが多い。秋に紅葉する。花期は6～7月。生長は早く、痩せ地でも生育できる。ミノガ類、イラガ類に注意する。
サルスベリ	落葉	3-7	○	△		△	樹皮は赤褐色で平滑。花期は7～9月、紅、ピンク、紫、白色などがある。生長はやや遅い。強い剪定と乾燥地に耐える。カイガラムシ類に注意する。
アキニレ	落葉	10-15	○	○		○	葉は小形で光沢があり密生。秋に紅葉する。生長はやや遅い。環境圧に強い。強い剪定には耐えるが、自然樹形を活かし枝抜き程度でよい。カミキリムシ類、ミノガ類に注意する。
タイワンフウ	落葉	20-30	○	△	○	△	幹はまっすぐで狭円錐形にまとまる。強い剪定に耐えるが、あまり剪定の必要はない。葉は3裂、トウカエデより大型。秋に紅葉する。生長は早い。アメリカシロヒトリ、カミキリムシ類に注意する。
モッコク	常緑	7-15	○	○	○	△	端正で美しい樹形。樹形が整いやすいため、剪定等の手間がかかりにくい。葉は赤みがかった深緑色で光沢が顕著。実は10～12月頃に熟す。生長はやや遅い。カイガラムシ類、ハマキムシ等に注意する。
ヤマボウシ	落葉	10-15	△	○			広楕円形の整った樹形となり、自然樹形を活かせる。十字型の白い花（総苞）が5～7月頃咲く。10月頃実が赤く熟し食べられる。生長はやや遅い。カミキリムシ類に注意する。

参考；改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009

緑化・植栽マニュアル，中島宏，2004

熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993

		
イチョウ 出典(1)	トウカエデ 出典(1)	クロガネモチ 出典(1)
		
キンモクセイ 出典(1)	ナンキンハゼ 出典(1)	サルスベリ 出典(1)
		
アキニレ 出典(2)	台湾フウ 出典(1)	モッコク 出典(2)
		
ヤマボウシ 出典(1)		
出典(1)熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993 出典(2)改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009		

道路の植栽樹種

7.2.2 公園

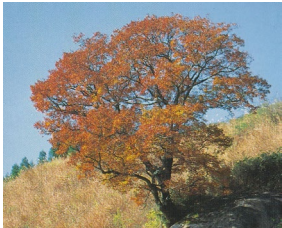
公園の植栽樹種

樹種	常緑・落葉	樹高(m)	耐暑	耐煙	耐火	耐潮	特徴等
キンモクセイ	常緑	3-10	○		○	○	球形の整った樹形。10月頃、橙黄色の花が咲き、芳香を漂わせる。生長はやや遅い。萌芽力が強く葉が密につき、比較的自然樹形が整う。カイガラムシ類、ミノガ類等に注意する。
クスノキ	常緑	40	○	△	○	△	熊本県の木。緑豊かなふるさとの景観をつくる樹種の一つ。球形の樹形で大きな緑陰をつくる。葉は光沢がある。生長が早い。クスサン、ミノガ類等に注意する。
イチヨウ	落葉	15-30	○	○	○		本市の木。樹形は整いやすく、葉は扇型で秋に黄葉する。雌雄異株。生長は早い。クスサン、カイガラムシ類等に注意する。
サザンカ	常緑	13	○	△	○	△	枝は多く分岐して密に茂る。剪定に耐え、生垣にも利用できる。花期は10～12月、花色は白、ピンク、農紅など。生長が遅い。チャドクガ等に注意する。
サルスベリ	落葉	3-7	○	△		△	樹皮は赤褐色で平滑。花期は7～9月、紅、ピンク、紫、白色などがある。生長はやや遅い。強い剪定と乾燥地に耐える。カイガラムシ類に注意する。
クヌギ	落葉	5-10	△	△	○	△	単幹で枝が多く力強い樹形。人里の景観を構成する代表的な樹種。葉は鋸歯が鋭く尖り、秋に黄褐色に黄葉し、丸いどんぐりがつく。生長は早い。カミキリムシ類、コウモリガ等に注意する。
シラカシ	常緑	20	○	△	○		広楕円形の樹形で、葉は細長く明るい緑色で裏面が白っぽい。枝葉が密生し、刈込にも耐えるため、単木でも生垣でも利用できる。生長は早い。カミキリムシ類、コウモリガ等に注意する。
トウカエデ	落葉	10-15	○	○	○		直幹で整った樹形になる。葉は浅く3裂し、ほぼ三角形。秋に紅葉する。樹形が乱れやすいが、刈込に耐える。生長は早い。ミノガ類、アメリカシロヒトリ等に注意する。
コナラ	落葉	10-20	○	△	○		樹冠は不整形で単幹または株立ち。自然らしさを演出するには適している。新芽は銀白色の綿毛に覆われる。秋にどんぐりがつく。生長は早い。カミキリムシ類、コウモリガ等に注意する。
センダン	落葉	10-20	○	△		△	傘状の樹形。葉は羽状複葉。5～6月頃薄い紫色の細かい花を房状につける。生長が早いので、短期間で緑陰が形成できる。特に目立つ病害虫はない。
シダレザクラ	落葉	10-15	△			△	枝が下垂し、花は葉に先立って咲く。白、淡紅、紅色があり、一重、八重咲がある。生長は早い。アメリカシロヒトリ、ミノガ類、イラガ類等に注意する。
ラカンマキ	常緑	10	○		○	○	幹が直立し、枝が多く出て、下枝は斜めに垂れ下がることがある。刈込に耐える。葉はイヌマキに似るが、イヌマキより小形で密生する。生長はやや遅い。カイガラムシ類等に注意する。
ウバメガシ	常緑	6-15	○	○	○	○	株立ちのものが多く。葉はカシ類の中では小さく、枝葉が密生する。強い刈込に耐え、生垣としても利用できる。生長は遅い。カイガラムシ類、ミノガ類等に注意する。
タラヨウ	常緑	15-20	○	○	○	△	単幹で整った樹形になる。葉は大きく光沢があり、厚みがある。雌雄異株で雌木には10月頃赤い実が集まってつく。葉の裏に文字を書いて遊べる。生長はやや遅い。カイガラムシ類等に注意する。

参考：改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009

緑化・植栽マニュアル，中島宏，2004

熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993

		
キンモクセイ 出典(1)	クスノキ 出典(1)	イチョウ 出典(1)
		
サザンカ 出典(1)	サルスベリ 出典(1)	クヌギ 出典(1)
		
シラカシ 出典(1)	トウカエデ 出典(1)	コナラ 出典(1)
		
センダン 出典(1)	シダレザクラ 出典(2)	ラカンマキ 出典(2)
		
ウバメガシ 出典(2)	タラヨウ 出典(1)	
出典(1)熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993 出典(2)改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009		

公園の植栽樹種

7.2.3 市営住宅

市営住宅の植栽樹種

樹種	常緑・落葉	樹高(m)	耐暑	耐煙	耐火	耐潮	特徴等
クロガネモチ	常緑	10-18	○	○		○	整った広円柱形の樹形。葉は光沢があり濃緑色。雌雄異株で雌木には11月頃実が赤く熟す。生長はやや遅い。自然に樹形が整うため、剪定等の管理がしやすい。カイガラムシ類に注意する。
シラカシ	常緑	20	○	△	○		広楕円形の樹形で、葉は細長く明るい緑色で裏面が白っぽい。枝葉が密生し、刈込にも耐えるため、単木でも生垣でも利用できる。生長は早い。カミキリムシ類、コウモリガ等に注意する。
サザンカ	常緑	13	○	△	○	△	枝は多く分岐して密に茂る。剪定に耐え、生垣にも利用できる。花期は10～12月、花色は白、ピンク、農紅など。生長が遅い。チャドクガ等に注意する。
ラカンマキ	常緑	10	○		○	○	幹が直立し、枝が多く出て、下枝は斜めに垂れ下がることがある。刈込に耐える。葉はイヌマキに似るが、イヌマキより小形で密生する。生長はやや遅い。カイガラムシ類等に注意する。
サルスベリ	落葉	3-7	○	△		△	樹皮は赤褐色で平滑。花期は7～9月、紅、ピンク、紫、白色などがある。生長はやや遅い。強い剪定と乾燥地に耐える。カイガラムシ類に注意する。
アメリカフウ	落葉	20-30	○	△	○	○	雄大な整った樹形で直幹。葉は秋に黄・紅葉する。生長は早い。剪定に耐えるが、整った樹形に生長するため、あまり剪定の必要はない。アメリカシロヒトリ、カミキリムシ類等に注意する。
メタセコイア	落葉	25-30	○				樹形は直幹で整った細長い狭円錐形。葉は秋に褐色に紅葉する。生長が早い。カミキリムシ類、ミノガ類等に注意する。
シュロ	常緑	8	○	○		△	茎がまっすぐに伸び、頂部に掌状の大きな葉がまとまってつく。雌雄異株。強健で生長は遅い。ハムシ類に注意する。
ウメノキ	落葉	6	○	△	○	△	品種により樹形は様々で枝垂性もある。花は白、ピンク、紅、一重、八重などがあり、2～3月早春に咲き芳香がある。生長は遅い。アメリカシロヒトリ、オビカレハ等に注意する。
ヒメシャラ	落葉	15	△				枝が斜め上に伸び整った樹形となる。樹皮が赤褐色。7月頃白い小形の花がつく。葉は秋に紅葉する。生長はやや遅い。カイガラムシ類等に注意する。

参考；改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009

緑化・植栽マニュアル，中島宏，2004

熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993

		
クログネモチ 出典(1)	シラカシ 出典(1)	サザンカ 出典(1)
		
ラカンマキ 出典(2)	サルスベリ 出典(1)	アメリカフウ 出典(1)
		
メタセコイア 出典(1)	シュロ 出典(2)	ウメノキ 出典(2)
		
ヒメシャラ 出典(1)		
出典(1)熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993 出典(2)改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009		

市営住宅の植栽樹種

7.2.4 学校

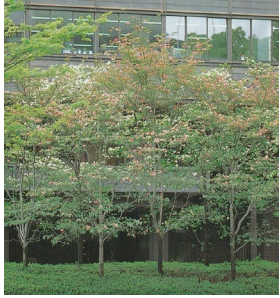
学校の植栽樹種

樹種	常緑・落葉	樹高(m)	耐暑	耐煙	耐火	耐潮	特徴等
センダン	落葉	10-20	○	△		△	傘状の樹形。葉は羽状複葉。5～6月頃薄い紫色の細かい花を房状につける。生長が早い、短期間で緑陰が形成できる。特に目立つ病害虫はない。
エノキ	落葉	20	○	△	○	○	枝を横に広げて重圧感のある樹形。秋に黄葉。10月頃、赤褐色に熟す実をつける。乾燥地に耐え、生長はやや早い。剪定に耐えるが、自然樹形を活かして枝抜き程度でよい。イラガ類に注意する。
ハナミズキ	落葉	5-10	△	△			直幹で枝が横張り形にやや水平に出る。花（総苞）は4～5月に葉が完全に出そう前に枝先に上向きに咲く。花の色は白。葉は秋に紅葉。生長はやや遅い。カイガラムシ類、アメリカシロヒトリ等に注意する。
カツラ	落葉	25-30	○		○		樹形は直幹で左右対称の整った狭円錐形。自然樹形が美しい。葉はハート形で秋に黄葉する。葉に芳香があり、抹香の材料になる。雌雄異株。生長は早い。カイガラムシ類、ミノガ類等に注意する。
イロハモミジ	落葉	10-15	○				樹高の割に枝幅が広がる。成木になると樹形が定まり管理しやすい。新葉ともに小さく赤い花が上向きにつく。秋は紅葉する。生長は早い。カイガラムシ類、ミノガ類等に注意する。
クスノキ	常緑	40		△	○	△	熊本県の木。緑豊かなふりさとの景観をつくる樹種の一つ。球形の樹形で大きな緑陰をつくる。葉は光沢がある。生長が早い。クスサン、ミノガ類等に注意する。
ヤマモモ	常緑	6-20	○	○	○	○	枝葉が密生し整った広円柱形の樹形で管理しやすい。葉は淡緑色で細い。雌雄異株で、雌木には6～7月頃に赤い実がつき食べられる。生長はやや遅い。ハマキムシ、ミノガ類等に注意する。
イチョウ	落葉	15-30	○	○	○		本市の木。樹形は整いやすく、葉は扇形で秋に黄葉する。雌雄異株。生長は早い。クスサン、カイガラムシ類等に注意する。
ナナミノキ	常緑	15	○	○		△	直幹で卵形の樹形となる。葉は光沢がある。雌雄異株。雌木には赤い実が秋につく。生長は早い。ミノガ類、イラガ類等に注意する。
アキニレ	落葉	10-15	○	○		○	葉は小形で光沢があり密生。秋に紅葉する。生長はやや遅い。環境圧に強い。強い剪定には耐えるが、自然樹形を活かし枝抜き程度でよい。カミキリムシ類、ミノガ類に注意する。

参考；改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009

緑化・植栽マニュアル，中島宏，2004

熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993

 センダン 出典(1)	 エノキ 出典(1)	 ハナミズキ 出典(1)
 カツラ 出典(2)	 イロハモミジ 出典(1)	 クスノキ 出典(1)
 ヤマモモ 出典(1)	 イチョウ 出典(1)	 ナナミノキ 出典(1)
 アキニレ 出典(2)		
出典(1)熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993 出典(2)改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009		

学校の植栽樹種

7.2.5 その他の公共施設（区役所、スポーツ・文化施設、その他、保育・幼稚園、老人憩の家）

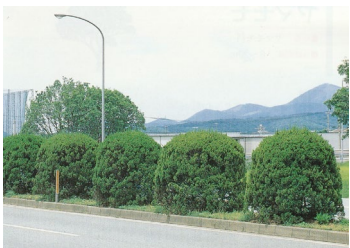
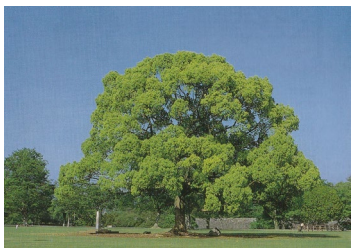
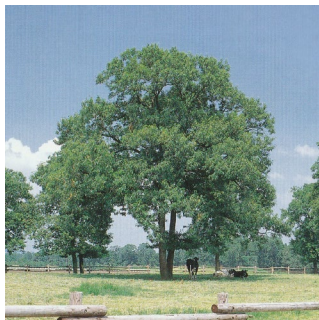
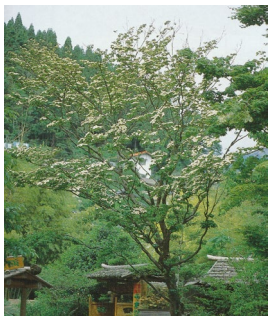
その他の公共施設の植栽樹種

樹種	常緑・落葉	樹高(m)	耐暑	耐煙	耐火	耐潮	特徴等
カイヅカイブキ	常緑	10	○	○	○	○	樹形は広円錐形で枝が旋回する。葉は鱗状で光沢がある。生長が早い。排気ガスなどの環境圧に強い。赤星病の中間寄主であるため、ナシ産地等には植えないこと。
クスノキ	常緑	40	○	△	○	△	熊本県の木。緑豊かなふるさとの景観をつくる樹種の一つ。球形の樹形で大きな緑陰をつくる。葉は光沢がある。生長が早い。クスサン、ミノガ類等に注意する。
キンモクセイ	常緑	3-10	○		○	○	球形の整った樹形。10月頃、橙黄色の花が咲き、芳香を漂わせる。生長はやや遅い。萌芽力が強く葉が密につき、比較的自然的樹形が整う。カイガラムシ類、ミノガ類等に注意する。
モッコク	常緑	7-15	○	○	○	△	端正で美しい樹形。樹形が整いやすいため、剪定等の手間がかかりにくい。葉は赤みがかった深緑色で光沢が顕著。実は10～12月頃に熟す。生長はやや遅い。カイガラムシ類、ハマキムシ等に注意する。
ナンキンハゼ	落葉	10-15	○	○		△	葉は菱状卵形。樹形は不整形のことが多い。秋に紅葉する。花期は6～7月。生長は早く、痩せ地でも生育できる。ミノガ類、イラガ類に注意する。
クロガネモチ	常緑	10-18	○	○		○	整った広円柱形の樹形。葉は光沢があり濃緑色。雌雄異株で雌木には11月頃実が赤く熟す。生長はやや遅い。自然に樹形が整うため、剪定等の管理がしやすい。カイガラムシ類に注意する。
クヌギ	落葉	5-10	△	△	○	△	単幹で枝が多く力強い樹形。人里の景観を構成する代表的な樹種。葉は鋸歯が鋭く尖り、秋に黄褐色に黄葉し、丸いどんぐりがつく。生長は早い。カミキリムシ類、コウモリガ等に注意する。
サルスベリ	落葉	3-7	○	△		△	樹皮は赤褐色で平滑。花期は7～9月、紅、ピンク、紫、白色などがある。生長はやや遅い。強い剪定と乾燥地に耐える。カイガラムシ類に注意する。
ヤマボウシ	落葉	10-15	△	○			広楕円形の整った樹形となり、自然樹形を活かせる。十字型の白い花（総苞）が5～7月頃咲く。10月頃実が赤く熟し食べられる。生長はやや遅い。カミキリムシ類に注意する。
ホルトノキ	常緑	20	○	○		△	広円柱形にまとまり整った樹形。葉は濃緑色。春～夏に古い葉が紅色に色づいて落葉する。生長は早い。カイガラムシ類、ハマキムシ等に注意する。

参考；改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009

緑化・植栽マニュアル，中島宏，2004

熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993

		
カイヅカイブキ 出典(1)	クスノキ 出典(1)	キンモクセイ 出典(1)
		
モッコク 出典(2)	ナンキンハゼ 出典(1)	クロガネモチ 出典(1)
		
クスギ 出典(1)	サルスベリ 出典(1)	ヤマボウシ 出典(1)
		
ホルトノキ 出典(1)		
出典(1)熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993 出典(2)改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009		

その他の公共施設の植栽樹種

その他の公共施設のシンボルツリー

樹種	常緑・落葉	樹高(m)	耐暑	耐煙	耐火	耐潮	特徴等
クスノキ	常緑	40	○	△	○	△	熊本県の木。緑豊かなふるさとの景観をつくる樹種の一つ。球形の樹形で大きな緑陰をつくる。葉は光沢がある。生長が早い。クスサン、ミノガ類等に注意する。
スダジイ	常緑	18	○	○	○	○	まっすぐな幹に球形の樹形。葉は濃緑色で光沢があり、裏面は褐色。5～6月に黄色の穂状の花がつき、秋に細長いどんぐりがつく。生長は早い。カミキリムシ類、カイガラムシ類等に注意する。
ココスヤシ	常緑	3-8	○	○		○	小形のヤシ。大きく長い羽状葉が湾曲して垂れ下がる。葉の裏側は帯白緑色。生長は遅い。乾燥地に耐え、強健。特に目立つ病害虫はない。
シナサワグルミ	落葉	30	○	○		○	広楕円形の樹形で大木となるので緑陰樹に適している。葉の軸に翼がつく。生長は早い。カミキリムシ類に注意する。
トチノキ	落葉	25	△	△	○		樹形は球形で枝が太い。葉は掌状複葉。花は5～6月頃枝先にろうそくを立てたような白い花序をつける。秋に黄葉し、クリに似た大きな実をつける。生長は早い。クスサン、ミノガ類等に注意する。
ネムノキ	落葉	10	○			○	傘状で独特のやさしい樹形で、葉は細やかな羽状複葉。6～8月頃、枝先に雄しべが長くハケの先のような淡紅色の花をつける。乾燥地に耐え、生長は早い。カイガラムシ類に注意する。

参考；改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009

緑化・植栽マニュアル，中島宏，2004

熊本の緑化樹木，熊本県土木部景観整備課，1993



クスのノキ 出典(1)



スダジイ 出典(1)



ココスヤシ 出典(1)



シナサワグルミ 出典(1)



トチノキ 出典(1)



ネムノキ 出典(1)

出典(1)熊本の緑化樹木, 熊本県土木部景観整備課, 1993

その他の公共施設のシンボルツリー

7.2.6 参考：聞き取り調査で得た植栽候補樹木

今後、熊本で植栽候補となり得る樹種を検討するため、森林総合研究所及び熊本県樹芸農業協同組合において、熊本の気候や地勢に合った樹木について聞き取りを行いました。そこで植栽候補となり得るといわれた樹種を以下に整理します。

聞き取り調査結果：熊本において植栽候補となり得る樹種

植栽候補となり得る樹種	意見等	特徴等	可能と考えられる植栽場所					
			道路	公園	市営住宅	学校	その他公共施設	シンボルツリー
ツクシヤマザクラ 落葉 10-15m	- 天草地方で生育し暑さに強いと考えられる。 - 一心行の大桜もツクシヤマザクラである。 - 入手が困難なため、苗木を入手できる体制を構築中。	ヤマザクラの変種で、九州の海岸付近に分布。ヤマザクラに比べ、花や葉が大きく、花の付く密度も多い。	○	○	○	○	○	○
クルマドメ 落葉 10-15m	- 熊本城内にある肥後桜と呼ばれる品種。 - 肥後六花の園芸文化で持ってきた品種と交雑したものと推察される。 - ソメイヨシノより生育は遅い。 - 暖かい気候での生育は不明である。 - 熊本の地域桜であるため、使用してもよいと考えられる。	チハラザクラに近い仲間ヤマザクラの変種。ツクシヤマザクラやコマツナギ、タイハクと同じ品種であるとする説もある。花は白色で大輪、一重。		○	○	○	○	
チハラザクラ 落葉 10-15m	- 剪定に強い。 - 入手が困難であるが、苗は増やせる。	既に道路、公園、学校に植栽される。樹形は広卵状、花は4月中旬、白色で大輪、一重と八重がある。	○	○	○	○	○	○
ヒトツバタゴ 落葉 10m	- 鹿児島で生産される。 - 久留米では街路樹にしている。	5月に円錐花序の純白の花を樹冠いっぱいにつける。雌雄異株。生長はやや早い。	○	○	○	○	○	○
ジャカランダ 常緑 15m	暖かい場所には適している。	葉は緑色で対生し、2回羽状複葉。5～6月に青紫色の花が咲く。	○	○	○	○	○	○

参考：改訂版緑化樹木ガイドブック，財団法人建設物価調査会，2009 https://www.shuminoengei.jp/m-pc/a-page_p_detail/target_plant_code-444

https://www.ootk.net/cgi/shikihtml/shiki_4928.htm

<http://sakuraneko.life.coocan.jp/sakura/data/kurumadome/03kurumadome.html>

<https://www.hananokai.or.jp/sakura-zukan/chiharazakura/>

7.3 植栽基準

7.3.1 市有施設の植栽樹木目標数

本プランにおける当面 3 年間の植栽本数は、伐採する樹木の約 2 割である 1,000 本を植栽します。その後、毎年樹木点検を実施する本数を 500 本と想定し、E 判定（危険木）と判定される本数が実績から 10～18%（約 20%）になると予測した場合、100 本の伐採木が発生します。そのため、本プラン策定後の 4 年目から 10 年目は植栽本数 100 本/年を目標とします。

なお、毎年の点検樹木数は流動的であり、「熊本市緑の基本計画」では市全体の緑被率を 2030 年まで 32.8%の確保に努めるとしていることから、この目標値に留意しつつ、毎年の植栽樹木の数を検討します。

7.3.2 補植の考え方

【道路の補植の基準】

「道路は「熊本市域街路樹再生計画」の基準に則ることとします。

【市有施設（道路以外）の補植の基準】

市有施設（公園、市営住宅、学校、その他公共施設）における補植の基本的な考え方を以下に示します。

市有施設（道路以外）の補植の考え方

- ・ 樹種ごとの大凡の樹冠が確保できる間隔で植栽する
- ・ 生長して建物や架空線等に接触しない場所を選択する
- ・ 根の生長により躯体を持ち上げる、遊歩道等の舗装が破損する恐れのある場所に植栽しない
- ・ その他、補植後に障害とならないか十分に検討する

（1）植栽基準

植栽設計施工においては、計画→現況調査→分析評価→設計方針設定→設計検討作成→施工が基本的な流れとなります。

【道路の植栽基準】

道路は、道路の法令や「熊本市域街路樹再生計画」の基準に則ることとします。

【市有施設（道路以外）の植栽基準】

植栽設計施工の流れの中でも特に留意すべき項目である事前調査と植栽基盤の検討については、以下の基準で植栽を行います。

『事前調査』

植栽基盤となる現況基盤の土壌要件を確認するために事前調査を実施します。

事前調査の手順

調査	主な調査内容	
1.概況調査	資料・情報収集	・ 現況の地質や地形 ・ 特徴的な土壌の性質等 ・ 植物と土壌の適正等
	現地踏査	・ 地形の確認、観察 ・ 土壌試掘、指触、観察 ・ 水系の確認、観察 ・ 植生の確認、観察
2.標準調査	透水性、下部の排水性、硬度、有害物質、酸度、養分、保水性	

参考；「植栽基盤整備技術マニュアル(案)」財団法人日本緑化センター 1999 年

『植栽基盤の検討』

a.植栽基盤の厚さ

植栽基盤の厚さについて、以下に示します。

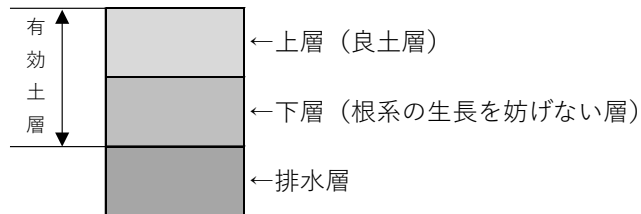
規格別有効土層の厚さ

	高木			低木	芝生/草花
	樹高	12m以上	7～12m	3～7m	3m以下
上層	60cm	60cm	40cm	30～40cm	20～30cm
下層	40～90cm	20～40cm	20～40cm	20～30cm	10cm以上

注) 樹高は生育目標の大きさ

出典・引用；「植栽基盤整備技術マニュアル(案)」財団法人日本緑化センター 1999年 p13表1-7を修正

有効土層の整備模式図



出典・引用：「植栽基盤整備技術マニュアル(案)(1999)財団法人日本緑化センター」p12図1-5を修正

○植栽基盤＝有効土層＋排水層

『有効土層』物理的、化学的に根の伸長を妨げる条件が小さく、根群が容易に伸長できる土層で、一定の養分や水分を含んでいる。

『排水層』有効土層の底部で水が停滞することのないように透水または排水される状態にある部分で、有効土層の下位の基盤が透水性不良な場合等に、この排水層の整備が必要となる。

出典・引用：「植栽基盤整備技術マニュアル(案)」財団法人日本緑化センター 1999年 p15

有効土層の整備模式図

b.植栽基盤の広がり

一般的な公園や緑地において、独立して植栽する場合の1本あたりの植栽基盤の広がりを目安は、植栽植物の樹高を直径とする広がりを目安とします。また、群落として植栽する場合の植栽基盤の広がり、植栽地全域が広がりを目安となります。

植栽基盤の広がり標準（単位：㎡）

樹高	樹木					芝 地被類
	高木			低木		
	12m以上	7～12m	3～7m	1～3m	1m以下	
1本あたりの広がり の標準	約110.0 (12m)	約80.0 (10m)	約20.0 (5m)	*約5.0、約1.8 (2.5m)(1.5m)	約0.3 (0.6m)	植栽地面積
群落植栽の広がり の標準	植栽地面積					

(注)1. () は直径を表す。

2. 一般的な場合は*を適用する。

3. 植栽が点在する場合、1本あたりの広がり標準を適用するものとする。

出典・引用：「植栽基盤整備技術マニュアル(案)」財団法人日本緑化センター 1999年 p14表1-8を修正